

## 第75回“社会を明るくする運動”伊勢崎佐波推進大会 報告書

令和7年7月28日

日時 2025年7月17日(木) 13:30~15:30

場所 伊勢崎市境総合文化センター

先日の7月17日に境総合文化センターにて、第75回社会を明るくする運動佐波伊勢崎推進大会が開催されました。



当クラブからは18名の参加で、各参加団体の中では、一番多いと思われる人数でした。



会長も間に合いました。



始めにセレモニーが行われ、臂市長の挨拶や役員紹介、内閣総理大臣からのメッセージ伝達等が行われ、社会を明るくする運動の意義や必要性が力強く示されました。

セレモニー後休憩を挟み14時頃から、『お前の親になったる』と題して、草刈健太郎氏による講演がスタートしました。

<p>講師紹介：草刈健太郎氏</p> <p>1973年 大阪府岸和田市生まれ</p> <p>2003年 日之出塗装工業(株)代表取締役就任</p> <p>2006年 カンサイ建装工業(株)代表取締役就任</p> <p>2013年 オープンブックマネジメント(株) 代表取締役就任</p> <p>【企業登録】 日本財団職親プロジェクト 再犯防止プロジェクトチーム</p> <p>【代表理事】 公益社団法人 OMO I Y S R Iプロジェクト</p> <p>【理事】 一般社団法人 ギャンブル依存症問題を考える会</p>	<p>【経歴】</p> <p>1973年、大阪府岸和田市生まれ、近畿大学法学部を卒業。その後、カンサイ建装工業、日之出塗装工業、オープンブックマネジメントの代表取締役を務める傍ら、日本財団の再犯防止プロジェクト「職親プロジェクト」の立ち上げメンバーとして、受刑者の社会復帰促進就労支援を実施。また、自ら設立したOMO I Y A R Iプロジェクトの代表理事として、就労支援以外に被災地支援や発展途上国支援などにも邁進している。</p> <p>著書には、本講演タイトルでもある「お前の親になつたる」（小学館集英社プロダクション）がある。</p>
--	--

始めに、草刈氏の活動を報道機関が特集した映像が流れ、その後自身の体験談を踏まえた講演となりました。

草刈氏は、2005年に、アメリカに住む妹を犯罪で亡くしており、犯罪被害者家族という立場であったにもかかわらず、大阪の知り合いの企業経営者から「職親プロジェクト」に誘われて、受刑者の就職受け入れや支援活動をするようになったそうです。

受刑者の就職に関する支援の中で、重要な点として、草刈氏は「絶対に見捨てないこと」と「自己肯定感を見いださせること」といったお話をされていました。また、本人が自分の状態を自覚することの重要性についても述べられており、ギャンブル依存症の疑いがある人が、草刈氏が呼んだ専門家の人と2時間以上ギャンブルの話題で盛り上がった後、突然指をさされ「あなたをギャンブル依存症として認定します！」と言われ、言われた本人が強いショックを受けて、立ち直るきっかけとなった、という話は非常に面白く、単なる言葉だけでなく、方法にも工夫が必要なのだなと感じました。

また、受刑者の思いや要望に対応するために、縦の繋がり・横の繋がり・縁というものを重視しており、「三日でいなくなる」「何年も育てたのに再犯にいたる」など、何度被支援者に裏切られても、「縁も財産」と考え活動し続ける、という姿勢には心を打たれました。

様々な縁や繋がりを重視して、出来ることを淡々と続けていく姿勢は、ロータリー活動にも通じるものがあり、今後の活動に活かしていきたいと思います。



中川会長を待つ宮澤幹事とメンバー



草刈氏の人柄に興味津々な加藤さんと保護司でもある多部田さん

参加者18名  
 中川会長、宮澤幹事、須田満、多部田敬三、久保木雅彦、村岡幹彦、柳井正臣、加藤学、小澤弘、山崎由紀雄、後閑正裕、岡部修久、松浦大耕、下田仁、臂友幸、内山陽介、蜂須崇史、柴田忍（順不同、会長幹事以外敬称略）

報告者：柴田 忍